

台風漂流

夏から秋にかけては私たち台風一族の一番元気な季節です。今年は本格的な台風シーズンを前に3つを超す台風仲間が日本列島に上陸、すわです。たまたま風まかせで漂流して行った先に日本列島があつたので横切つただけの話です。私たち台風は時には直径2千km超す巨体を持つ雲の渦ですが、実のところ見かけだおしで自分自身ではほとんど動けずにヨットのように風まかせで移動させられているのです。上空5kmから7km付近の一般流と呼ばれている大きな流れがそれです。

今年はその流れがなにか変調気味なのです。流される私たち台風仲間にはわかりませんが、どうやらエルニーニョ現象が原因らしいと風のたよりです。南米ペルの沖合から赤道海域の日付変更線付近までの海面の温度が異常に高くなるもので、これが起ると活発な雲ができる場所が東にずれて地球規模で大気の流れに異常をきたすとの話です。例年の夏では太平洋の高気圧が西に張り出して、ちょうど壁のように聳えて日本付近に私たちを寄せつけません。東風でフィリピンや中国大陸に向かわせるのです。が、張出しが弱く、西の縁に沿って北上して日本付近に流されて上陸します。

夏の季節は私たちを流す風がはつきりせずに

迷走台風とありがたくない呼ばれ方をしますし、秋には偏西風に乗ると偉駄天走りだと揶揄されますが、私たち自身は忠実に流れ乗っているに過ぎないのです。でも唯一仲間同士で動けるのが、私たち台風が近づいたときです。時計と反対回りの渦が互いに引力のように引き合い、その重心の周りを回転します。藤原効果と呼んでいます。昔は、私たち台風は全て女性でしたら、今は男性の名と交互に名付けられていますのでランデブーとなることが多いのです。しかし台風が3つともなると三角関係で複雑極まりなく、何処へ流されるか皆目見当がつきません。

以前、予報精度がいまほゞよくな頃に、私たちを避けて逃げたところが逆に中心に巻き込まれたという話がありました。中心気圧895hPaと猛烈に発達した仲間18号の進路上にラワンを満載した貨物船がいたのです。ルソン島の西北端時は「五六四年一月九日のことでした。船長さんの報告では、「1時間に」31hPaという耳鳴りがすりほどどのすごい気圧の低下が続

き、ついには最低気圧905hPaを記録、風速は85m/sを越えたといいます。風速80m/sの風が数時間も続きついには船は海岸の浅瀬に座礁して奇跡的に沈没を免れました。最近は以後予報の精度向上と情報伝達がよくなり幸いなことに悲惨な話は聞きませんのでホットしています。

私たち台風一族は過去から未来永劫、他力本願で全て自然がなすがままです。ですから炭酸ガスの増加で地球が暑くなるという地球温暖化が進むと一族の行く末が心配です。台風が巨大

ます。小粒の被害なし台風で水だけ運んでこいという暴論を云う人がいますが、風まかせ他力本願の私たちではどうにもならないことです。

でもこんな私たちの気紛れ進路でも偶然にも歴史の上で日本を救ったことが何度もあったのです。古くは鎌倉時代の蒙古襲来を撃退した神風です。一回の元寇のうち少なくとも二回は呼んでいます。昔は、私たち台風は全て女性でしたが、今は男性の名と交互に名付けられていますのでランデブーとなることが多いのです。しかし台風が3つともなると三角関係で複雑極まりなく、何処へ流されるか皆目見当がつきません。

以前、予報精度がいまほゞよくな頃に、私たちを避けて逃げたところが逆に中心に巻き込まれたという話がありました。中心気圧895hPaと猛烈に発達した仲間18号の進路上にラワンを満載した貨物船がいたのです。ルソン島の西北端時は「五六四年一月九日のことでした。船長さんの報告では、「1時間に」31hPaという耳鳴りがすりほどどのすごい気圧の低下が続

き、ついには最低気圧905hPaを記録、風速は85m/sを越えたといいます。風速80m/sの風が数時間も続きついには船は海岸の浅瀬に座礁して奇跡的に沈没を免れました。最近は以後予報の精度向上と情報伝達がよくなり幸いなことに悲惨な話は聞きませんのでホットしています。

私たち台風一族は過去から未来永劫、他力本願で全て自然がなすがままです。ですから炭酸ガスの増加で地球が暑くなるという地球温暖化が進むと一族の行く末が心配です。台風が巨大

化するとか、数が逆に減るとかパラメータを変えたら別の結果が出たとか、まさに百家争鳴の予測です。たしかに海の温度が上がれば私たちの食糧である水蒸気が増加するでしょう。しかし、その食糧を集める大きな循環システムがどうやって、どこにできるのか、小粒でたくさんのが、巨大台風なのか。私たち台風一族の一生は以外にデリケートなのです。それが故に地球の行く末とともに私たち台風の子孫の未来が心配です。